



外国人の生徒も受け持ちたい！

小林 廉

こばやし れん (19)



平成26年当時

2019年は少なくとも1か所は行きたいです。輝く将来に向けて一歩踏み出そうとする一人の女性。今振り返ると、本当の最初の一步は、海外派遣に手を挙げたあの日に、既に踏み出されていたのかもしれない。

変化した意識

平成26年に同じくマレーシア

へ海外派遣に行った小林廉さんは、日本の暮らしの中だけで英語力を身に着けることの難しさを痛感しました。「向こうの生徒が優しく接してくれたり、ジェスチャーを使ってなんとかコミュニケーションは取れましたが、もっと英会話を頑張らなければ」と思いました」と語る小林さん。現在は大学1年生。東

膨らむ夢

小林さんは将来の夢を追って、柔道整復師の資格と教員免許を取るために勉強しています。

「私は高校の野球部にいた頃、肩と肘を怪我して野球を

小林さんはさらに「もしかしたら外国人の生徒も受け持ちたかもしれないね」と続けます。そのときのために、英語力も鍛えておかなくてはなりません。と。その可能性に、日本で暮らしていただけでは気づかなかったかもしれない。海外派遣の経験は小林さんの中に確かに根付き、将来への視野を広めました。



平成25年当時

世界中の学校を回りたい！

井上 美紀

いのうえ みき (19)

マレーシアで学んだこと。



平成9年度から始まった中学生海外派遣。マレーシアのAPSSへの派遣やペタリングジャヤ市のリーダーシップ・プログラムへの参加、ホストファミリーとしての外国人生徒の受け入れを通じて子供たちの国際感覚を養います。

中

学生。大人の自覚を持ち始めながら、何でも吸収することが出来る多感な時期。町には中学生に海外での体験を通じて様々な考え方を身につけてもらう中

自分を変えるきっかけ

「人と話したり、自主的に行

動することが苦手でした」と語るのは、平成25年にマレーシアのAPSSに海外派遣に行った井上美紀さん。自分を変えるためのきっかけとして海外派遣に手を挙げたといいます。

英語がそれほど得意ではなかった井上さん。相手が表情やジェスチャーで意図を読み取ってくれたおかげでコミュニケーション

教育の道へ

将来の進路に迷っていた井上さんは、マレーシアの学校で生徒たちが自主的に考え、自由に学ぶ様子を思い出しました。

「日本と外国の教育のいい点を取り入れて、次の世代の力になれないかと思い始めました。将来は学校の先生として三芳町で働くか、教育の研究に携わりたいと思っています。」

続けられなくなりました。次の世代に同じ思いをさせないために、生徒の体を安全に管理できる部活の先生になりたいです」と語る小林さんの目は輝き、しっかりとした将来像を見据えて話します。

APSSとは？



三芳町と交流があり、海外派遣を行うアジア・パシフィック・スマート・スクール。マレーシアのセラランゴール州にある学校です。